

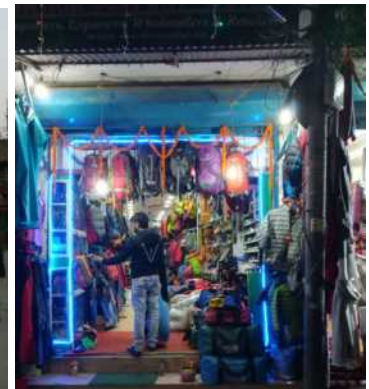
■ 自由投稿 自由に気軽にヒマラヤトレッキング！！

武藤功二（20期）

11月8日から18日にかけて、中東カタードローハからネパール ヒマラヤにトレッキングに行ってきました。概略の日程は下記の通り。

- 11月8日（木） ドーハからカトマンズ着 ネパール観光局 ザック等調達 カトマンズ泊
- 11月9日（金） フライトにてルクラへ エベレスト街道を登りジョルサレ泊
- 11月10日（土） ナンチェバザール、ホテルエベレストビュー経由 クムジュン泊
- 11月11日（日） ホテルエベレストにてご来光 一気にルクラまで ルクラ泊
- 11月12日（月） フライトにてカトマンズ経由 ポカラへ ポカラ泊
- 11月13日（火） ナヤプルからガンドルン ガンドルン泊
- 11月14日（水） ガンドルンからゴレパニ ゴレパニ泊
- 11月15日（木） プーンヒルにてご来光 ウレリ経由ナヤプル ポカラ泊
- 11月16日（金） 国際山岳博物館見学 カトマンズへ ザック等返却 カトマンズ泊
- 11月17日（土） カトマンズからドーハへ

ドーハからはフライト4時間半にてカトマンズに着き、まずはTIMS（トレッキング許可証）を取得するため、タメル地区にあるネパール観光局へ。タクシーで着いたところ、なんとあいにく祝日（ティハール、光の祭典）にてクローズとの事。なんとかなるかなと気を取り直し、祭りでダンスがあふれる中を登山道具屋へ、道具（ザック、寝袋、防寒ジャケット）をレンタル（計350円/日 為替レートはほぼ1ネパールルピー=1円のため、以下円にて表示）を日数分デポジット。翌日のルクラへのフライトは10時しか取れていないため、早いフライトに乗るべく、早々に就寝して翌朝5時に空港へ。（注：カトマンズはばい煙がひどいため、マスクが必要）



空港の門が開き、荷物チェックを済ませ、沢山のツアー登山客とともに、空港カウンタへ。ツアー客は続々とチェックインしていくが、キャンセル待ちの身にて、しばらく空港で辛抱。7時半ごろようやく声がかかり、世界一危険なフライトへ搭乗開始。10人程のセスナ機にて山間をかすめるようにして標高2,800mのエベレスト街道ルクラ空港に無事着陸。ここの空港はよくテレビでも紹介されているが、滑走路が短く、また傾斜がある。着陸時は上り坂、離陸時は下り坂を下りながら、離陸する。極めて合理的だが、有視界飛行のため、天候悪化時にはすぐ、キャンセルになる。また近くにはヘリポートがあり、エベレストビューのヘリコプターが頻りに離着陸する。空港に降り立ち、皆が歩く方向へポーター探しをするが、どこかのブログで盛んに声をかけてくるとあったが、そんな様子は一切なし。仕方がないので、最寄りのホテル兼カフェに入り、ポータを雇い旨を依頼。感じのよい兄さんが、若いポータを連れてきて価格交渉。後の山行もあるため、2つの荷物を託し、自分は空身にて登山開始。エベレスト街道は道幅は広いものの、いろんな人、動物が行き来する。まずは登山者、ぼっかのポータ達、はたまた、荷物を背にしたヤク。ヤクとすれ違う時は必ず山側へ避けるべきとの事。川側へ避けた場合、間違っつづつかった場合、谷に落ちる危険あり。街道を歩いていくと途中、途中で村々の子供が花を持ってやってくる。これもティハールの祭りならではの、結局はお金目当てでは

あるが。。そうこうしているうちにLUNCHの時間。沿道にはたくさんのロッジ、レストランがあり、食べる所には困らない。ただし、大抵のレストランは注文をしてからご飯を炊くとかの作業を始めるため、食事が出てくるまで、一時間ほどかかる。ゆったりとしたLUNCH後再度歩き始め、夕方には初日の宿泊地ジョルサレへ。途中と翌日、TIMSに代わる入場料(2,000円)、国立公園の入場料(3,000円)を払う。(気の強い欧米の単独行の女の子は、散々文句を言いながら渋々と払っていた)結局、TIMSはアンナプルナ側には必要で、制度変更により兼用はできず、それぞれに支払いが必要となった。宿でも祭りの子供らのダンスを見る事ができ、ポータは別宿にてそれぞれ就寝。



翌日は川沿いの道から尾根への急登を上り、街道の分岐点の町、ナンチェバザールへ。ここは空港のあるルクラに劣らず、洒落たカフェもあり、大変栄えている。ネパール特有のストウパ(仏塔)を見ながら、さらに登り続け、目的地エベレストビューホテルへ。着くなり宿泊を交渉したが、どうもここはツアー客しか宿泊させず、やんわりと断られる。しかし、その先のクムジュン(シェルパの里)のロッジを紹介してもらい、それがまさに大正解。クムジュンは丁度盆地の中にあり、学校、雪男を祭ってあるところもあり、また国鳥ダンフェ(ニジキジ)も見られ、大変良い処である。(あいにく私は確認できず)昼から霧が出てきて辺りは見えなくなり、明日の快晴を祈りつつ、床につく。

5時過ぎに目が覚め、辺りを見渡すと、なんと一面に星空が。暗い中、ライトを手に歩き始め、昨日のエベレストビューホテルのベランダにて朝日を迎える事に。まさに雲ひとつない快晴にて、遠くかなたにエベレストを望み、至福のひと時を過ごす。このベランダには三浦3代のプレートもあり、その偉大さを改めて感じる。ここからはすがすがしい尾根道をナンチェバザールまで下り、洒落たカフェで軽い朝食を取り、ここから一気にルクラまで下る。途中トレイルランの選手(ほとんどが欧米人)ともすれ違いながら、彼らのタフさに改めて関心する。当初、余裕をみて4日のところ、順調であったため、3日間にてルクラへ戻る。





1日早まった事もあり、こニルクラの空港でもキャンセル待ち。早朝、航空会社のカウンタに行くとして10時頃に来いとこの事にて、しばしカフェにて時間をつぶし、時間を見計らってカウンタに。しばらくすると、無事ジェットコースターのごときフライトに乗ることができた。ここでも山側の席（この場合は右側）の席をとる事をお勧めしたい。無事カトマンズにつき、即ポカラ行きのフライトにチェックイン。すぐに乗り継ぎができ、午後にはポカラへ。ここはルクラと違い、標高800mのため、随分と温かい。

空港からおんぼろのタクシーに乗り、お目当てのホテルへ。通常のロッジ風であるが、素泊まり1,000円と山中と変わらず安くありがたい。食事をしに、日本食料理店の「桃太郎」へ（カトマンズにもあり）。山行の後はやはりかつ丼とビール。イスラム国ではとても味わえない料理に感激しつつ、いただく。ホテルに帰ると、ガイドらしき人がおり、明日のプランを相談。とりあえずガイドを雇い、2泊3日にてアンナプルプーンヒルへ行くこととする。



翌日は、TIMS取得を代行してもらい、11時ごろからまたおんぼろタクシーにて移動。1時間程して起点となるナヤプルへ。ここからガイドとともに歩き始め、国立公園、TIMSのCHECK POINTを過ぎ、田んぼ、段々畑の中を初日の宿泊地ガンドルンへ。温水のシャワーもあり快適なベッドのなか就寝。

翌日はプーンヒル手前のゴレパニへ。ここのロッジもWIFIも使え、快適である。明日の快晴を祈りつつ、就寝。



4時半すぎに起きるとまさに星空が一面に。5時過ぎから歩き始め、プーンヒルの入場料（200円）を払い、行列の中、頂上へ。ご来光はまさに雲一つない快晴にてアンナプルナ、ダウラギリの山々を堪能する。

ここからロッジに戻り、朝食後、一気にウレリ経由ナヤプルへ。再びおんぼろタクシーに乗り、ポカラへ帰還。ナヤプルへの途中、国立公園チェックポイントにて国別入場者数の掲示があり、気になり、帰りに再び訊ねたが、やはり日本人の入場者数は上位10位にも入っておらず、何位がわからないとの事。ちなみに一位は中国、二位、韓国、三位英国、以下欧米諸国。日本人はどこに行ってしまったのか？下山途中にやっと3人組の若い日本人グループに会ったが、彼らもカトマンズを含め5日間で日本人にあったのは私が初めてとの事。エベレスト街道でも日本人を見かけたが、皆、ツアー旅行ばかり。欧米の単独行の果敢な女の子とは対照的。当初、日本人のバックパッカーが沢山いるものと思っていたが、全然違う現実に唖然。日本では山ブームと言うのに、時期的なものか、フライトの不便さもあるかと思うが、現役諸君にも是非バイトして、ネパールのトレッキングをしてほしいものです。こんなにすばらしい神の山々はありません。なお、同トレッキングは17期小浜さんが会報57号に、21期村石さんがHPにそれぞれ投稿しているため、そちらも参照願いたい。 ナマステ！！

